

記事紹介

二・三画
視点：新左翼勢力
は労働者階級の前
衛として鍛えよう
全国の闘う仲
間から戸村一
作、四方君を守る
会、小西誠、全
細川鉄工支部、全
石油ゼネラル石油
精製労働組、中野マ
リ子、石黒国男
四面
「たたかいのなか
から」

新左翼

1972年
1月5日
第107号
月3回 5、15、25日発行
1部30円
1ヵ月100円 半年500円
1ヵ年1000円 共

発行所
新左翼社
大阪市大淀区本庄川崎町
2-10 トミヤビル
電話 (371) 5304
振替口座 大阪 88555
昭和43年12月12日
才三種郵便物認可



史 唯 方 緒 ち た い

金網で囲われたからといって
おとなしく飼われてはならぬ
いたちは鋭い爪を持っているので
穴を掘って地下に潜ってしまう
そうである
何をやるか知れたものではない
床をコンクリートで厚く固められて
自慢の鋭い爪が
もはや脱出に役立たぬと知ったとき
いまさら哀れみを乞うわけにいかぬとすれば
いたちは
自由を勝ちとるために
金網に噛みつき
金網をめざり
金網に体当たりして
われとわが身を打ち砕いて
死ぬかはしない
最後尾をひいて
ある日
金網を取り払われ
見張りは姿を消し
何を喰うかが
「ちょっと来い」という奴はいなくなった
いたちのあるものは
自慢の爪を
短かく丸く切り
マニキュアをし
チョッキを着て
赤い絨毯の上でのぐろをかいている
仲間が死ぬと
無縁塚へ葬って
一年に一回
坊さんを招きだりお葬をあげたりし
一応神妙な面をしてみせて
安らかに眠れなと気安くいつ
陽の目を昇すに死んでいった仲間たちが
安らかに眠れると本気で思っているのだろうか
いたちといちをいかにあわせ
いたちの群をふまえて
とどかい罅隙を弾いている捕縛たち
殺し屋のもの
足をめぐる樹に
立ち上がるいたちはいないのか
鋭い爪を
ますます磨き立て
研ぎまじし
その爪を揮って
不条理に噛みつくいたちはいないのか
それがシンボルの
つかいしつばを
ふてふてしくおっ立てて
仲間の先頭に立つ馬鹿ないたちが
あつてもよからうではないか
あつてもいいと思わないか

動隊から手厚く保護され、大日本
菊水会（チツソ総会）、防兵挺身
隊（三菱重工総会）などの右翼暴
力団と連合して一株株主にチヂス
棒（警棒）にせだ短い棒。だが
名づけたか。学生の角材をガバ棒
と呼ぶよりも、さらにふさわしい
名称だ）をやるつた。

た三浦義一が、今日、自民党最右
派の質屋調直雄の暴行で、まぢがいとは言えないにしても、
日本の左翼には、昔から一つの

のろ、特高はしばしば国粋会
（当時の国粋会は博徒大前田一家
はなビルの中におさまっている日
本のトップ企業も、内稱は、総会
（昭和十一年）以後の国民の姿
を求めてゆくよりほかあるまい。
縮挫坂、中国侵略（十二年）以後
大きな犠牲を伴うにはちがいない
の国民多数の軍と石翼への畏敬と
が、大正七年の米騒動の規模の一
追従のような心情が、一部とく
てきかかっていないか。

平連の吉川事務局長は「りつ
らに似た失望をさへ感じた、と
二・二六事件 どのような戦いの中から『統』の場
に似た失望をさへ感じた、と
二・二六事件 どのような戦いの中から『統』の場

